

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練士学科1年制	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	解剖生理学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	前期	教室名	第2合同校舎702教室
担 当 教 員	孫 明洲				
実務経験と その関連資格	1986年医科大学卒、医学学士、医師(中国) 2001年神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了、学術博士 2003年より21年間続き、医療系基礎医学の専任教員として、看護学科・理学療法士学科・作業療法士学科・視能訓練士学科・言語聴覚士学科などの生理学・解剖生理学・臨床医学など科目を担当した。 日本生理学会会員 「早わかり生理学ハンドブック」(ナツメ社)を単独で執筆した。				
《授業科目における学習内容》					
1、本科目の授業として「血液の構成と働き」、「生体防御機能及び免疫異常」、「中枢神経構成と機能」、「末梢神経の構成と機能」、「内分泌」、「栄養と代謝及び代謝異常」、「病原体及び感染・感染症」など内容から構成される。 2、医療のための基本的な人体の機能的な構造とその働きを理解し、また臨床でよく見られる病態の内容も取り入れる。					
《成績評価の方法と基準》					
◎評価内容:①学期末試験1回(満点100点)、②小テスト3回(満点100点) (③口頭試問、④授業態度) ◎評価方法:成績評価(満点100点)=①期末試験成績×80%+②小テスト平均成績×20%+(③④を考慮に入れる)					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
ナツメ社「早わかり生理学ハンドブック」、医学書院「目でみるからだのメカニズム」					
《授業外における学習方法》					
①授業の前に予定授業内容を教材で調べる。②授業後に授業内容を教材で確認する。③配布される練習問題や国会試験過去問などを練習する。④分からない部分がありましたら、担当先生に聞き、またはクラスメイトと討論する。					
《履修に当たっての留意点》					
1、「はい」、「うん」よりもまず自分らしいイメージを作ってみましょう。2、知識は楽にして身に付きませんが、増えれば増えるほど勉強が楽しくなります。3、病態や臨床については、十分な解剖生理学の知識がなければ進めません。自分自身で選んだ目標を目指して頑張れ!					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	感染源と感染経路の基本を述べることができる。	「人体と看護」の「感染と免疫編」第1章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。	
	各コマにおける授業予定	【病原体及び感染・感染症】——①病原微生物と感染			
第2回	授業を通じての到達目標	感染予防と感染症治療の基本を述べることができる。	「人体と看護」の「感染と免疫編」第6章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。	
	各コマにおける授業予定	【病原体及び感染・感染症】——②感染症の発症と予防			
第3回	授業を通じての到達目標	血液の主な成分と役割について説明できる。特に血漿の構成と機能についてはより詳細に説明できる。	「生理学ハンドブック」第11章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。	
	各コマにおける授業予定	【血液の働き及び免疫機能】——①血漿の構成と機能			
第4回	授業を通じての到達目標	血液の主な成分と役割について説明できる。特に血球の構成と機能についてはより詳細に説明できる。	「生理学ハンドブック」第11章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。	
	各コマにおける授業予定	【血液の働き及び免疫機能】——②血球の構成と機能			
第5回	授業を通じての到達目標	有害微生物などから身体を守る生体防御機構の構成や生体防御機能(免疫)について説明できる。		教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 小テスト①のため復習すること。	
	各コマにおける授業予定	【血液の働き及び免疫機能】——③生体防御と免疫			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	内分泌系はその分泌物「ホルモン」を利用し全身器官組織の機能を調節する特徴を説明できる。	「生理学ハンドブック」第6章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 正答出来なかった小テスト内容に強化勉強する。
	各コマにおける授業予定	【小テスト①】感染と感染症・血液・免疫部分 【内分泌機能】——①概説：内分泌系の構成とホルモンの一般性質		
第7回	授業を通じての到達目標	インスリンなどホルモン血糖調節の仕組みを説明できる。副腎皮質ホルモンの糖質コルチコイド臨床利用及び副作用を説明できる。	「生理学ハンドブック」第6章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。
	各コマにおける授業予定	【内分泌機能】——②実例：血糖調節ホルモン、抗炎症抗免疫ホルモン		
第8回	授業を通じての到達目標	三大栄養素の生体機能を説明できる。主なビタミンの生体機能及び欠乏症を挙げる。	「生理学ハンドブック」第12章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。
	各コマにおける授業予定	【栄養代謝及び代謝異常】——①主な栄養素とその生体機能		
第9回	授業を通じての到達目標	エネルギー源とする栄養素の体内代謝の特徴を説明できる。	「生理学ハンドブック」第12章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 小テスト②のため復習すること。
	各コマにおける授業予定	【栄養代謝及び代謝異常】——②栄養素の体内代謝		
第10回	授業を通じての到達目標	ニューロンの基本構造を述べる事ができる。神経の興奮及びその興奮送るメカニズムを説明できる。	「生理学ハンドブック」第2章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 正答出来なかった小テスト内容に強化勉強する。
	各コマにおける授業予定	【小テスト②】内分泌・栄養と代謝部分 【神経系の構成と機能】——①神経細胞、膜電位、興奮の産生と伝導及び伝達		
第11回	授業を通じての到達目標	大脳、間脳、脳幹、小脳を区別し、それぞれの主な機能を述べることができる。	「生理学ハンドブック」第4章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。
	各コマにおける授業予定	【神経系の構成と機能】——②中枢神経の構成と役割		
第12回	授業を通じての到達目標	脳神経の主な構成と役割、脊髄神経の主な構成と役割を説明できる。	「生理学ハンドブック」第4章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。
	各コマにおける授業予定	【神経系の構成と機能】——③末梢神経の構成と役割		
第13回	授業を通じての到達目標	交感神経と副交感神経の主な構造と機能を説明できる。認知・記憶・学習・言語・意志など高等な精神統合機能に関わる大脳皮質連合野の主な役割を説明できる。	「生理学ハンドブック」第4章	教科書を読むこと。 配布された練習問題を解いておくこと。 小テスト③のため復習すること。
	各コマにおける授業予定	【神経系の構成と機能】——④自律神経の構成と役割 【神経系の構成と機能】——⑤大脳の総合機能		
第14回	授業を通じての到達目標	上記内容について全般的な輪郭を描けて述べる事ができる。練習問題や小テスト範囲に関わる問題を80%以上解ける。	上記教科書内容	練習問題、小テスト問題及び国家試験過去問に関わる知識を確認すること。必要な内容について教科書やほかの資料を調べる事。
	各コマにおける授業予定	【小テスト③】神経系部分		
第15回	授業を通じての到達目標	中枢神経模型の作製によって中枢神経の構成を理解する上にその主な機能を説明できる。	上記教科書 他の参考書、解剖学図譜	図書室で解剖学図譜を調べて楽しくて自習勉強すること。
	各コマにおける授業予定	粘土で中枢神経模型の作製		